ふくling

災害時のボランティア活動

初動対応を学ぶ

本県は、これまで、平成20年岩手・宮城内陸地震、平成23年東日本大震災、平成25年豪雨・大雨災害、平成28年台風第10号災害、令和元年台風第19号災害など多くの災害に見舞われ、岩手県社会福祉協議会（以下「県社協」）及び県内の市町村社会福祉協議会（以下「市町村社協」）は、その都度災害ボランティアセンター（ＶＣ）を立ち上げ、被災された住民の生活再建のため、多くの社協職員が運営に携わってきました。

また、近年は、全国的に地震、台風、豪雨等による災害が頻発しており、広域で同時多発的に発生するケースも増え、災害ボランティア活動が全国各地で展開されるとともに、その重要性が増しています。

このような状況において、岩手県社協市町村社協部会は令和元年度、県内で大規模災害が発生した際に、市町村社協間のネットワークを生かして活動できるよう、県社協と県内市町村社協の相互支援協定を締結しました。また、協定に基づき、発生直後の初期段階において、被災地及び被災社協の状況等の把握や初動期の支援が行えるよう、「県内市町村社協職員の災害対応初動チーム」（以下「チーム」）を編成し、50名がチーム員として登録しました。

災害時の初動対応を学ぶ

7月13日、盛岡市内において、災害時の初動対応に関する二つの研修会が開催されました。

県内市町村社協職員の災害対応初動チーム研修会

本研修会には、チーム員44名が参加し、災害発生時のチームの役割や動き方等の確認が行われました。

研修後半の質疑応答では、参加者から、「車両避難者や避難所周辺の在宅避難者の有無も確認できればよいのではないか」「チーム員誰もが現地の状況をイメージできるよう、常に情報が届く仕組みがほしい」「チーム員は災害ＶＣ業務経験者に限定されているが、後進の育成を考えていくことも必要」など、様々な意見が上がりました。

災害時を想定した初動対応研修

（いわてＮＰＯ災害支援ネットワーク、いわて連携復興センター主催）

本研修には、福祉・行政関係者ら64名が参加し、初動時の状況判断力のスキルアップを目的に、講義及びワークショップが行われました。

講師の大向昌彦さん（いわてＮＰＯ災害支援ネットワーク）は、災害経験の多い岩手は、今後の災害で県外から先遣が入らない可能性が高いと思われ、限られた人数で効率よく情報を集め、それを活用して的確な判断を導き出していくためには、知識やスキルを身に付け、状況判断の力を養うことが必要と話しました。

また、「先遣」「初動」の意味等の基本的な事項や、初動に必要な要素について、講義を行いました。

先遣とは

・被災地域の状況を把握し、その地域で支援活動を行うかどうかを判断する段階

・初動で集めた情報をわかりやすく集約し、必要な支援等の見立てをし、様々な対応につなげる役割

初動対応とは

・支援活動期間や被災者の生活再建までにかかる時間を短縮するための重要なポジション。支援者の足並みが揃ってスタート（初動）できればゴール（復旧・復興）が近づく

初動に必要な要素とは

❶**法や制度の知識**（国や自治体の動きが見え、公助が届かない部分への支援につなげることができる）

❷**現場観察力・状況判断のスキル**（事前に被害を予測したり、制度の活用を想定したり、現場でのマッチングやコーディネートに生かすことができる）

❸**家屋復旧に係るスキル**（ボランティアに指導できるスキルを持つことは、大きな力となる）

続くワークショップでは、実際の災害現場の写真から必要な情報を読み取り、現場の状況を判断し必要な対応を考えるグループワークが行われました。

チームの役割（活動内容）

チーム員は、災害発生時、県社協の先遣隊と共に、現地において被災地域及び被災社協の状況確認を行います。活動の基本的な流れは、おおよそ次のとおりです。

発災

- 県社協災害対策本部会議（以下「本部会議」）において、先遣隊の派遣を検討
- 県社協市町村社協部会会長から、チーム員所属市町村社協に職員の派遣を要請

チーム員の派遣（基本１～２日）**現地の状況確認**

- 県社協職員１名（先遣隊）とチーム員１名が２人１組となり、アセスメントシートにより被災地域及び被災社協の状況を把握※
- 本部会議で支援体制や応援派遣の実施を検討

情報共有会議の開催

- 県社協職員、被災社協職員、市町村社協職員（チーム員、応援派遣を実施した場合第１クールの応援職員）が同席して開催
- アセスメントシートにより情報を共有
- 被災社協災害 VC 運営支援計画を検討

（チーム員の活動終了）

災害ＶＣの運営・支援（被災社協・応援社協）

※アセスメントシートによる状況把握の内容

被災地の状況　地域の被害状況、避難所及び避難している要援護者の状況、行政が設置する災害対策本部の状況等

被災社協の状況　人的・物的被害状況、災害 VC の開設等被災住民に対する支援状況、組織運営・事業実施状況等

参加者が写真から読み取った内容（抜粋）

▶**大量の土砂・流木**
道路が分断されているかもしれない
災害ゴミの中に危険物が混ざっているかもしれない
流木を取り除かなければボランティア活動に入れない
行政に排除を依頼する必要がある

▶**家屋、車の被害**
ライフラインは確保できているのか
住民は避難しているのか
被害認定は済んでいるのか
作業には車の所有車や地権者の把握が必要

▶**その他**
通電により火災が発生するかもしれない
手前に灯油タンクがあるので、
火の手が上がるかもしれない